



### 日刊工業新聞 Business & Tec

や質  
症体  
知満  
認肥

# 遺伝子診断を事業化

## 東京農工大発 プロップジン マイクロアレイ解析

それぞれ3遺伝子を検査で

きる体制とした。  
同社は遺伝子検査の試薬・装置の製造販売と受託解析を手がけている。主力は結核菌検査キットで、売上高は2008年12月期で約4000万円。

東京農工大学発ベンチャーのプロップジーン(東京都小金井市、川口竜二社長、042・401・2877)は肥満と認知症、免疫機能低下になりやすい体質を、遺伝子診断する事業を始めた。

DNAマイクロアレイを使った一塩基多型(SNIP)解析により、これらの病気と関連があるといわれる遺伝子合計九つを一度に調べることも

できる。検査会社と健康関連事業会社の委託を受けて、健康な一般人向けの分析を手がける。

この検査は口の中の粘膜を少量取り、遺伝子抽出をしてマイクロアレイで解析する。個人差があるSNIPで、免疫機能低下に影響する遺伝子など統計的なデータがあるもので調べる。

例えば認知症関連遺伝子では、アルツハイマーとの関連が強いといわれる

脂質代謝の「APOE (アポイー) 遺伝子」のほか、免疫細胞のたんぱく質や血栓にかかわる遺伝子の変異に注目する。

病気は遺伝要因と環境要因で引き起こされる。生活習慣病での遺伝要因は研究途上だ。いくつかの遺伝子はかわりが明らかになっていて、これを活用する。他検査機関でも珍しい認知症と免疫関係、それにニーズが急増中の肥満関連でそ